

京蔵 19年ぶり「山月記」

19日、喜多能楽堂で自主公演

歌舞伎俳優の中村京蔵が19日、喜多能楽堂（東京都品川区）で開く自主公演「青嵐の会」で、19年ぶりに中島敦（1909～42年）の小説が原作の「新版 山月記」を再演する。同能楽堂との共催。

舞台は中国の唐代。才能に恵まれた李徴^{りちょう}が、高級官



吏を辞して詩人を志すも自尊心ゆえに挫折し、狂乱の果てにトウになるという物語だ。李徴を演じる京蔵は、「世間的には受け入れ難い性格の主人公だが、今回は内容を掘り下げ、屈折した人間の心の闇を丁寧に描きたい」と意気込む。

2006年、銕仙会能楽研修所（東京都港区）での第1

「新版 山月記」で主人公・李徴を熟演する中村京蔵＝2006年、銕仙会能楽研修所で

回自主公演で初演した作品。「山月記」は、京蔵が大好きな小説だったという。

公演は午後2時、同6時の2回。A席4500円、B席4千円（S席は完売）。予約は京蔵のホームページへ。



京蔵は、国立劇場歌舞伎俳優養成所を経て、1982年に四代目中村雀右衛門門下となり、主に女形として活躍してきた。「おまかせあ



れ」のせりふが印象的な会計ソフト「勘定奉行」のCM出演で知られる。

今月、四十余年の役者人生を振り返った初のエッセー集「中村京蔵の雀躍^{しゃくやく}囀^{てん}談^{だん}―守って破る歌舞伎の道―」（飯塚書店、3千円）＝写真＝を著した。師や、海外公演の思い出などをつづっている。